

# A 児といっしょに

～ 障害のある友だちとかかわる～

4.5 歳児

目的 言葉だけでなく、さまざまなコミュニケーションの仕方であらゆる気持ちが通じ合えたり、わかりあえたりすることに気づく。  
障害のある幼児とかかわることで、人とかかわっていくことの楽しさや喜びを経験する。

## 気づく

### お友だちのことを知ろう

うまくお話できないなど、自分と違う友だちの存在に気づく。  
人を傷つける発言に対しては個別にかかわり、「そんなこと言われたら悲しいな。」と伝え、いろいろな友だちがいることを知る。

<留意点>

- ・自分と違う友だちの存在や行動を受け止められるよう教師が間に入り、かかわっていく。

「Aちゃんってどうしてお話できないの。」

絵本「たっちゃんぼくがきらいなの～たっちゃんはいへいしよう～」(岩崎書店) 障害のある幼児に対してしている受けるような周りの幼児がいる。そうした幼児の保護者に対して、いっしょに考えてもらえるように働きかける。

## 広げる・深める

### どうすれば、うまくお話できるか考えてみよう

言葉だけでなく、いろいろなコミュニケーションの方法があることを知る。

<留意点>

- ・うまく話せない幼児の手と自分の手を合わすことで、友だちとのつながりが感じ取れるようにする。
- ・日々の生活の中で、言葉とは違う方法でコミュニケーションをとる方法を工夫する。
- ・A 児の表情や行動から思いが感じられるように、教師が「Aちゃんうれしそうだね。」「なんだか困っているみたいだね。」などと感じたことを伝える。

「手と手でタッチがAちゃんのあいさつなんだね。」

健康観察の時に教師がA児の前に立ち、手を出して待ち、手を合わせるように重ねられたときがA児との合図とする。本児の当番紹介(写真を前に出して) 自分の名前が言えないA児に、自分の写真を前に出すように教える。



絵カード

## 計画する

### 「これなあに」 絵カードを作ろう

A 児の成長に合わせ、自分の思いを A 児に伝える方法を考えていく。  
教師と障害のある A 児との絵カードを使った会話を遊びの中で知る。

#### < 留意点 >

- ・ 教師が実際に絵カードを使って、A 児とのコミュニケーションを幼児たちの前で行う。

絵カード（写真）を、ロッカーに貼る。絵カードを使って教師から伝えたいことや A 児がしてほしいことを教師に伝えられるようにする。他にも、一日の流れを絵や図で表示して視覚に訴える、手話をする、手を握る、身体に触れるなど。

## 実践する

### 何ができるかな

教師と障害のある幼児とのかかわりを見ることで、自分からその幼児とかがわっていきたいという思いを高める。

自分に何ができるか考える。

絵を描いたり実物を見せたりすることで分かってくれることが理解できる。

「ぼくが A ちゃんに渡してあげる。」

他の子どもたちが絵カードを使って障害のある子とかがわかる場をつくる。

## 振り返る

### 気づいたことや楽しかったことを話そう

自分でできることを見つけ、自らかかわっていくことや自分のことを理解してくれる友だちのことが分かる楽しさを経験する。

思いを表情から感じ取ったり伝えたりする。

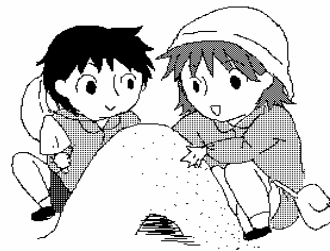
カードを使ってかかわる中で、目と目を合わせる大切であることを知る。

「にこっとしてくれた。うれしかったよ。」

かかわることでもうれしい思いをもった子どものことをクラスのみんなに知らせ、つながることの喜びをみんなで感じ取れるようにする。

#### 絵カード

言葉でのコミュニケーションが苦手な人達のために、視覚支援として感情や日常のさまざまな動作を絵に描いたもの。



#### 【学習を進めるにあたって】

- ・ 特別な教育支援が必要な幼児の発達段階やその幼児にかかわるまわりの幼児のかかわり方について十分配慮する。
- ・ 特別な教育支援が必要な幼児への対応については、「LD, ADHD, 高機能自閉症支援ガイドブック(増補版)滋賀県教育委員会」等を参照し取り組む。

